ねばならぬ事は各々顧客のよりて修められ且つ達せら

然るに又是より一層心せに天才的もあるが又修養に

般に對する趣味と嗜好なれるのであると思ふ故に右

操從の道も大いに必要であ

主として苟も一事業を主統

9る以上は營業上の整理は

諸君にお詫いたます

仕入から凡ゆる營業品

する必要はある、元來商丁 覚したら十分の修養を逐行



平活版研

Ħ

米

市

况

活

版所

· 報取报主事報 · 本 植 亮

弟譜 君 2 7 0

澗 7 想

の人々は塾れも奪い經驗の|世間の獨立を志す人々は往 多いことであらう、それ等へき必用はないが處か今迄 營主として活祉會に立ち他|るものゝ多きは當初極めて 經營に移る人々は毎年可成素であるから更に弦に言ふ 店員や工手から進んで獨立 らう然るに時々刻々を進者は實際にのぞんで往々失 伍して行く丈けの自覺が完全と見られたる獨立經營 有者であろうから今後經1々にして右の數件を閉却す の如きは處世上の一般的要 日本橋區新和泉町一

【日曜日】

化して行く商工界の競爭は

敗を累ねる事が

層烈しい事で今後獨立と

して行くには相當の難關は

0 御 同人

田所町九

源

左

衛

門

現

新材木町

出五 上

五

男

長谷川

井町

の折とて込合候に付今回 扨て當新報印刷所も年末 御事御察し申上候 年末に付御尊家御多忙の 同

爾生町六岩

稻

垣

長

太

田

所町

堺町四

市田商店洋端物部

ぬと思ふそれで足らぬと自

格を一應顧みなければなら なさんとする人々は自分資 らぬ從つで今後獨立營業を 供ふものと思はなければ成

保存は申に及ばず店員の|所以である遺憾なる次第で ある、勿論之等の要件は一 發行の遅れたる事は會員 同 日本橋區堀留町二 神田區元柳原町四二 新材木町一四 通油町二 田 萬 源ノ 松之助 兵 次八 衛

る機に臨みて良く謀り良く|各人の大に判斷に得られる| 西村平かどに一大觀察力が必用であ|の條件に欠けて居るや否は|日本橋區長谷川町二三 富澤町 通 村合 $\mathbf{x}_{\bigcirc}^{-}$ 郎

各人の大に判斷に得られる

内にありては店務統割の任あるから欠けてる點は大に は果して難事ではないので 修養に先輩を手本として之 日本區橋町ニノ 同 長谷川町八 勘 爲〇 治 名會計 次 商 郞 助

商店必須

ら此れを切り取りて置けば 屋仕入先を案内致しますか 一寸商品の照會などに至便 本誌は本號より毎號東京問

同椚楢雑雑楢 割丸割割同丸

卸陶荒

下中銘仙上.....

根ラ菜

女用

平町

丁目

洋品各種 ジャケツ

平町三丁目

其他三圓より七圓迄 全下 ……… 貫三、000 全下 ……… 貫三、000

三徳麥代用米

特約販賣店

他和洋菓子、

果實

E 磐城平町二丁目

支

店

H 野 洋 話五 即 墨番 店

同同塊 下中炭 同麥中上米 下上同同二 石 炭

九三五00

廉賣に優さる商畧なし

電話記

一六番

在庫豊富

良品

金物問屋 品質優良

福島縣平町五丁目 *

Æ

切合

产

泽自

動

福島縣平南町六六

電話二〇三番

冠婚薨祭遊山等貸切の場合は特に勉强御相談に

ずべく候

福島縣石城郡平町五丁目

金取引は弊店の特色なり **國**價格最低 國出荷迅速 電話隠れ番・一三九三振替東京一〇九五六

福島縣平町新川町 長 阆

話

五

八

番

板電東話

貸乘 切合 福島縣平町搔搥小路 潮 地

·强 電話六三二番 萬 部

文房具一式三工ス萬年筆

電點六〇五番

ヤス店

城無 盏 會社

長 T 嘉 治

屋

號

木米雜穀 伊藤隆大商店

計化藥處量批品方調

器品般劑 劑 自角 師

山野

本石油株式會社特約店

磐城平町二丁目

到邊東次郎 一一樂 局

お雑木 茶貨炭

在庫豊富 選 品 磐城平町二丁目 郡 四 倉 新

鈴木金三郎商店 あかや

洋服店 町

部分品 不サービスストーン目 電話六一番

町 平 驛 前

様に差上げて居りますので

をする、

從つてかいる店では

極安く勉强して即値と同

手前共では何品によら

田、一ノ關、

織物は好みに

|益々濃厚となり途にやむな

く共倒れとなり大商店も店

相生足利、

野菜なら長町、千住、下仁

それで原産地に向つて注文

高いと思ふてるらしい

せられ堂々たる商人も行商

する、或は川

越

或は銚子

町の吳服やは織元や東京の するより外に道なくなり、

一流處に押され町の不况は

買ふ方から見れば、それで 隨分御客が殺倒する。然し

れなくなつて來る即ち町の つて行げず大商店もやり切

八百屋は在の百姓から壓迫

來た、松坂屋來たと云ふて

やうな狀態では

あるまいか

最近か

九五町南町平

町の品より割

え坊!! 虚榮!! 家は、三越が|我が愛する平町

購買組合的に注文する、見なる

越後と日本の果までも

を閉するより外に道がなく

小部案

高の物買つて來て、喜んで

に依て挽回出來る事か。 の趨勢で止む無か果、人力 余は感ずるかくる事は社會

人力によって之の狀態か

着買つた客には景品陳列塲

らである

にあるごんな帽子でも撰取

積

したら甲の商店と乙の商人

|共に繁榮に導く根源であら

當高くとられる地方のことるが故に其の上同業者も軒

も喜ぶ めば製

一寸した寫眞を撮るにも相

管になり居 屋と言

無代とする樣にしたの

余は敢て町の

とて確かに此の商略は成功

て)をつけて一

市

この差かなくなつて來るのねはならぬ、

卸値で宜 |〜賣つて小賣店を壓倒せん 積極的に薄利多質で行かう |でじつとして客を侍つより|案ではまいか、そした『誰|有力者達か進んで商業會議 とする、又大きい商店で安

來る私は考へる平町にも商 れか統御すかの問題が出て

ではと、 町々の奥さん達は 小賣商より 競爭と進めは賣る、 大の努力と利益離れした事 とする。こんな風に競爭に

お客の

摑

斯く多

人から行商人までも一定の

全に種々の方面。

即ち大商

૾ૢૺ૾ 他其屬金貴

喜んで買ふい

自分で町へ能

選

商

略

販

賣

衏

分の氣に入つた物を而も安

人被やい、何を差上げませ

も其の景品なるものが公衆

服店では同町内に敷軒

方の吳 の同

か買ふといふところが思ひ

二度客が來ればまた多少何

に客と店との懇意も増した

此の娘をも。 中には特別に

と言ふ風 此の子供

はよく見える方ですから 買ふ事は出來て、大商店 大商店へ買物する、奥様は 々出懸けて或は市場に或は

電話にて取り寄せるより自

力手段として景品贈呈をや つてゐるがこれは既に今日 凡ゆる商賣で購買刺戟の有もあれば金指環もあるこ 様に月並みに成つては而 --- (景 自 つた次第である。 或る競爭の激し

遂には小賣店は立|半分も顧客は來ないと言ふ 多くの品の内から顧客に自 定めた一定の景品の代りに のである吳服店では店から 由に選擇せしめる樣にして のものとなつては到底思ふ に何等の吸引力のない相末|商賣があつて常に客をとら 無代で其の赤ん坊の寫真を 物をした客にはその度毎に 時でも坊やをつれて來て買 する考へを起し、一年中何 れがちなので幸い店員の内 に寫真道樂のあるのを利用 付きである、

野田野平

Man 10000

酒海店

非常に人氣を引くことが出 來る、例へば男物の袴を一 撮つてやることにした例 來ると矢張り同じ樣に撮し ば今日來たお客がまだ來月 である。一公ふまでもなく赤 てやる……これが巧いの

になり三度になり四度にな のであるから りと言ふ樣に一度も多く撮 ん坊は日に一に成長するも 母親は二度 賞 商

店

0

|りさせて進呈すると云ふ風||而して何圓以下の客へは| 同店の考へは非常に當つた コードが寫真で残されるか一家は實に此の活社會の物品割合は正會員は一枚一厘別 して貰ふことを喜こんで居我が商業界は近來實に目 可愛い赤坊の成長のレしき發展を示して來たが商ろう、 |に便益は勿論消費額の輕减||手数いらずに配達し得るは を計るは最大の本分である皆需要家の物品に安償の値 供給場の役目さして需用家 醒告主と顧客の見るへき物あ 次で會員諸君の會費

|業會議所が出來からと、完| 寸感じた儘を中述べる次第 所を設けて色々の方面で活 ・ん事を望む弦に一

利益を見る事は出來す一代 せす思ひも寄らぬ時間を遣 き迷ひ迷ひて遂ひに要を達 **動拾錢安~買ふても決して** 生に還らぬ時間をそのま 安價なる品を見當て、 うつて拾錢や

71

1

芳 合森 町本町 田植

酒

代理店

振替仙台三〇六九電話三一二三平町字搔搥小路五

品文具問

石城郡植田

せるに至りては兩者の圓 何物もなくタチマチ會員組 此の要求しある商工業家と 經濟は全國的に多大なるも 後は如何に有益なるかは廧 營業の智織を需用家に會得 織となり生れたるは實に各 需家用との機關たる此紙は 要談の敏速を得て此 此の時に當つて 潛

筆篆鎸 耕刻線

諸印刻

圓

H

E

甲

平 町二丁 目

乘合。

貸切。

貨物自動車業

平町一丁目電 掻搥小路 松崎自動 公司二世中的一 電話八三番 話四四 74 H

に避ず べく候売式、遊山等貸切の場合は特に御相談

迅速叮嚀

各種洋服

石城郡

半町

御下命の際は電話六二一番に御掛け下され 間ず至急店員参上いたします 電話八一番

ば遠近な

會員は一枚五毛の廣告料で 付する源に期するの

氣なればこそ百姓家も自分思ふ、それは大商店は小商 成る程世の中不景氣だ不景ら光明を見る事が出來ると

育負つて賣りに來て、

に保護して利

益を平等にで景品の種類には 觀

初和

以止

のには何枚、

長院 もそれから其れと見廻り行 同業家の多きが放に需家

を並へてその勉强振りを發 **揮して居るが、余りに戸毎** 地球印質

良品格安の 買へ良き店

伽臺屋吳服 平町一丁目 電話一七巻

して來る、

片割りの影と凍りて杖

俳

句

日でもおかほのあれる心配でありいです、商業顔コーマーにはカチットです、商業顔コーマーにはカチーのあれたふせぐすぐれたはたちきがありますからいつもこれをもつかいになればざんなにさむいまった。

初醉は何かう

rは何かうれしもいだづらに をさなき嫉にたゞされしてき

からだゆすりて歩みて見た

0/4

番〇四一電

恥かしや夢に言いたるこさなりて

寬

生

進調美優

四平

◎初 醉 歌してゐれば遠海の鳴る

院長

萩原義

雄

電話二五九番

佢

くその姿は、目なら鳥の塒に迷 よぶ聲やあるミ小耳傾けて流し を力にトポートさ歩む姿り良れ

秋の夜、一夜一人淋じく旬を思ふ行く雲の一つ一つに秋ありぬ 行く雲の一つ一つに秋ありぬ 松本生

ません

静かに瞑想の彼方へ。やがて彼女

たらの

いぶきが身近く マスが近づくX

感じ 7

その日あれりなべての人々の

丘の上に棒さき

木露峰

その日や空家の屋根に鳴く鳥朝寒き膳に眞白き卵かな

などのショがついた時には三合ぼ光澤のあるぬりもの家具にインキの酢の 利用

E

MI

は近

速

長

詩

小

を待ち

高いの第一要所であると賞賛せの第一要所であると賞賛せの第一要所であると賞賛せいる。 此の廣告主會員も個 ノリスマ

No service of the ser

君、我に反く日花がくれ鳥なきて

君我に泣かずや。

ろず

5

幾年か又こゝに

×

か可

7=

方に なり

◎美

しく い

椿咲き鳥歌ひ

◎月下の曲 欄

様な其の音色僕は思わず聞き惚れ響く、青白い月光さもつれ合つた縫ふて彼方の山に此方の藪に輕くむみに彈き出した、夜のしゞまた そして オリン 神秘な月は大地へこぼれる榛に潤 んだ光を投げて居る彼女はブアイ 澄んだ月光を仰ぎ乍らおり を手に庭へ… 村 K M 生 私は貴女にき、たいなくぶつて入つてはいけないの、二人の間の友垣を こう (指環をのきさつた

はれる様谷博士の化粧品研究所でるために化粧品を製造の權威さいーはそうゆう方のれかいをかなえすゝめいたします、美がんニーマ

ニーマーをおつかひになる様におは明日からこいはづ今日から美顔ふ方はありませんか、さういふ方

されるのです

○有効なしつぶ

りませんか、

あゝごうかしてむく ふじぎに思ふ方があ のようじきれいなの なつて、まあなぜあ 美しい方をごらんに バラ色のほゝむした

しら?

ટ

なに美しくなりたいさ心かられご

夕風に、コスモスの化が揺られ甘の幕に包まれた。そよく、こ吹くの幕に包まれた。そよく、こ吹くの幕に包まれた。そよく、こ吹くの幕に包まれた。そよく、こ吹くをしい。 は静かに瞬いて居る。 りは何んの音もない、月に照らさしれた彼女の顔が青白い、銀沙の星を間は長く輕く響いて ………あた はブアイカリンの手を止めた、

具房文籍書刊新

種名きがは繪用年新

番四三二話電山丁四町平

ろいのンバカ生學他のそ

町停車場前

【日曜日】

々さ聞ゆる按摩の笛、さなきだに霜冴ゆる真夜中にやみを透して細 ◎按摩の笛响れた空には早くも明星が輝いたい密の香が微かに流にて來る 佐藤生 ちらして泣かしてやりませう。君をこれから思ふさまかうして僕の指にさし 寝床の中で思ふても 明日は必ず云ふんださ又も明日に延びました 今日は言ふうさ思ふたが 0 少女の悶え 夜

ほんたうの明日が來るのでせうです。こうとた事か云いぬものだったならの明日でなる。 短 歌

元造

崎

福島

縣平

町

陽

業商

見る。 な出

をクリ

ロイロイの向節期

モ

火も消えの書も讀み倦きの夜の更

秋原齒和醫院

おごろしく海鳴り聞ゆ此夜更け

心重たく寝床さるかも

◎海鳴る夜

入りてきし日のあるらし隣りに

土間の戸開きて話きこゆる

②寒

物

引御

スマユ

藤

野車坂町四三

最上

Ħ

振替東京六八三 一番 電話 同後草五七二八番

醬油

振替東京一 電話) 釀造工

成されたひるいのない美容液なのでも學理的にごこまでも新切に完獨特の美容薬さをつかつてここま おかほは一日中いきくくさした色すぐ之をおつけになればあなたの つやのもつのはもちろんのこと少 ですもの毎朝かほをあらつてから 性の新粘液素さヒフを艷んにする しつゞつけておもちへになればど ヒフを柔かになめらかにする植物

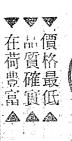
な美容液なのです美顔ユーマーは研究をつんだ結果創製された獨特學理的にも實際的にも多年の深い 石 城那平町南町

淋しき冬の一夜、一層淋しさた増

至急御入用の際は自動車にて御届け致します 木米 炭穀商 松崎、菊地、芹澤自動車平窪停留所前 鹽 到三郎商店 荒物雜貨

株 二本松電氣 江 會 福島縣石城町 75 郡 41 町白銀 張 町六 M

版所



振替仙台五九八五帝

罐詰雜貨 元造釀 中国国籍的 智話中四一番

平町在平窪

れる

は第一に實さみかふ合わぬよう なるこ腐りを速めます、又ミカになるこ冷へすざ五十一度以下 ミカンを長い間たとわへておくに ◎蜜柑の貯 方

居るのを患りにあつき一分位に港中にいれ暖ためその中にはいつてチフロジスチン容器をれつさうの意をを有効にたもち實行法はアン 適帯をします

まつておきまずカシ二十一度トカー工度の温度を保つ適富な場所にしてもみからわらばい又は石ばい

ヒピのはいつた卵もゆでる事が出煮るミカラがこわれるさもなく又す卵を茄でるさいにも酢をいれてさ魚の肉がしまい肉が固くなりま をすつて書けばよくかけますアル來ます油紙に字を書く時は酢で墨 りする場合、二三滴の酢ないればくさ綺麗になります又魚な煮がごの温湯・小ザシー杯の酢を加

ぐ爲にはアンチフロドスチン式のらわしい物です、その手数をふせしつぶのこり代へこ言ふのはわす しつぶ法といふのかあります。 酢でしめしてみがけばよくきれに れによると一回のしつぶでよく一 いたシミをおさす場合にはシチをミニュームなごの匙類の食器につ

もみからなざをつめこみます。み箱に入れてさらに其のすきまにを遠方に送るには一ツ~~紙につ きいけその上にだつしめんをあて 眼 科 巡

電話六六九番 世 プライム

其他修繕及附屬品一切 スカ ブラ 惠

號 自 轉 車

福島縣平町南町六十番地 話 M 四

新刊圖書・雑誌・唐紙用紙類 新刊書籍 御注文の 際は 迅速 確 健實に御取次ぎ致し 振 替 五三八八番 電話 園 一三一番

各國 文房具。 運動器 萬年筆

によって れそな へ

0 五番

番五の回足電 且上贵町平

(御使用下かい (是非弊点の漆器を()

何

本

御

3

本季流行の粋を網羅

せる

着尺モスリン

姨

腷 島

縣

平

HJ

第百七銀行平支店

十七銀行平支店

倉

銀

東

隔島農工銀行平支

所店

日英米佛獨專賣特許

磐

城

銀

電 話 話 Accessed Record 百 +

ħ + 代理店柏原喜代松

屋 外代 平町壹丁目十四番地 洋 A 服 會 會 T

紗洋服旣製品商

ダンロップタイヤー特にスタンレー電球特約販 磐城湯本町 木約賣店 號賣店 實

合。貨物。貸切。自動 車 業 工場 電話六九番車庫 湯本字笠井宮脈部電話三一番 商 酒銘

城

實

業

銀

越

銀

高長 久嘉本松^{長國分前} 至孝葉浦^{長國分年青雀平}

永花青佐櫻森野岩阿吉阿佐加會渡鷹柏丹大阿星井荒佐吉諸松大萩遠町 郎郎郎若清一藏雄平平門松郎郎一衞吾郎藏郎吉作郎郎郎松郎勇

電話 二五四番 磐城平田町二十五番地 目 支

銀行 出張

會長